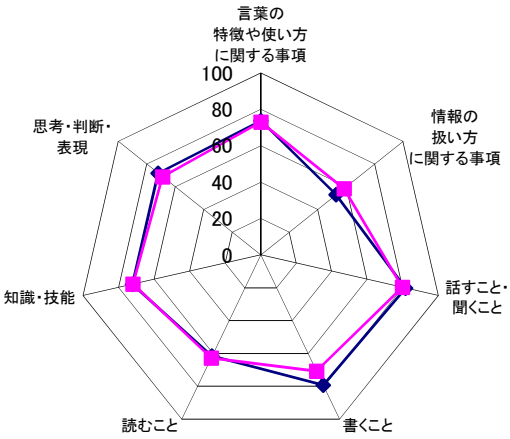


宇都宮市立横川西小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	73.7	73.0	75.5
	情報の扱い方に関する事項	53.0	58.5	59.0
	話すこと・聞くこと	81.5	79.8	75.9
	書くこと	79.3	70.7	71.7
	読むこと	61.6	62.8	62.5
観点別	知識・技能	72.2	72.0	74.4
	思考・判断・表現	72.0	69.0	68.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

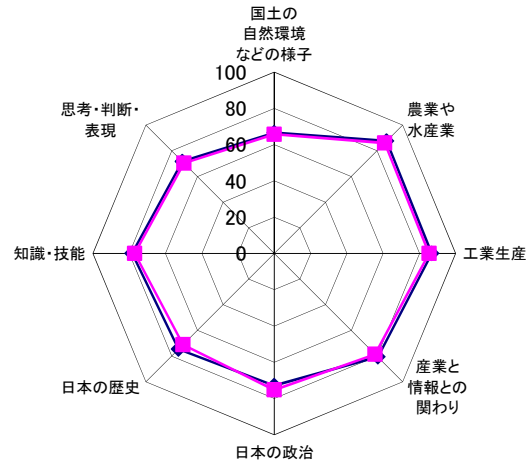
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は市の平均を上回っている。 ○5年生の漢字の書き取りについてはおおむね市の平均より上回っている。 ○言葉の学習については、市の平均より全て上回っている。 ●6年生の漢字の読みについては、ほとんど市の平均より下回っている。	○良好なもの ・6年生で習った漢字について、読みを音読させたり、繰り返し練習させたりして、確実に漢字の基礎基本を定着させる。 ・習った漢字を使って文章化させてみたり、文章と併せて読んだり書いたりする経験を積ませる。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は市の平均を下回っている。 ●情報と情報の関係について理解し、目的に応じて文章にまとめる力が市の平均より5点ほど下回っている。	・資料を読み取るだけでなく、提示された条件の中でどのように考えをまとめていくのかといった経験を数多く積ませて慣れさせる必要がある。 ・複数の資料を読み取り、それぞれの資料から分かったことを考えることに慣れさせる。
話すこと・聞くこと	平均正答率は市の平均を上回っている。 ○「司会者の工夫を捉える」「発言者の相違点と類似点」については、よくできている。 ●「話し手の工夫を捉える」ことについては、市の平均より3点ほど下回った。	・話し手の工夫にはどのようなものがあるのか、その基本を押さえておく。 ・話し手の工夫を意識して発表だけでなく、友達の発表を聞きながら、どのような工夫を使っているのかを理解する練習をする。
書くこと	平均正答率は市の平均を大きく上回っている。 ○全ての項目で市の平均を大きく上回っている。	・作文を書かせる際に条件を提示して書かせるようにする。 ・このような問題形式に慣れるために、過去問を解く経験を積ませる。
読むこと	平均正答率は市の平均を下回っている。 ○説明文の読み取りについては、全て市の平均を上回っている。 ●物語文の読み取りについては、ほとんどの項目で市の平均を下回っている。	・登場人物の心情理解を、本文中の言葉を根拠にして読み取らせる。 ・物語を読み取った上で、提示された条件に沿って問題を答える経験を積ませる。

宇都宮市立横川西小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	66.5	65.7	67.0
	農業や水産業	87.7	86.1	77.5
	工業生産	86.7	85.4	76.7
	産業と情報との関わり	80.7	78.6	69.6
	日本の政治	72.9	75.2	65.8
	日本の歴史	74.5	71.1	69.1
観点別	知識・技能	78.4	77.0	72.8
	思考・判断・表現	71.7	70.3	64.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

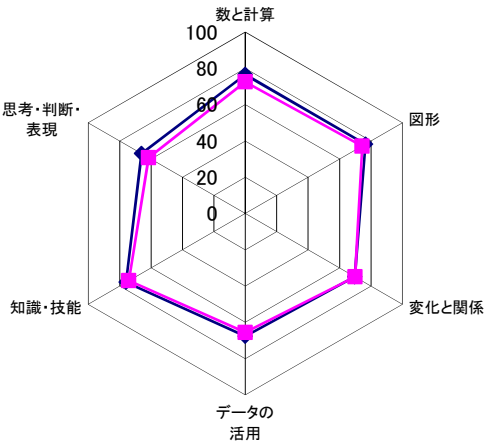
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は市の平均を上回っている。 ○3問とも市の平均正答率を上回っている。中でも「雨温図から都市の位置を考える」問題は市の正答率より3ポイント近く上回っている。	・世界の国旗や海の名前などを、世界地図の位置と合わせて覚えられるように復習する。
農業や水産業	平均正答率は市の平均を上回っている。 ○「水産業の生産量と輸入量の変化」については市の平均を大きく上回っている。 ○資料を基に米づくりの生産効率について表現する内容については、市の平均を2ポイントほど上回っている。 ●「米づくりに関する資料読み取り」については、市の平均より2ポイントほど下回っている。	・農業などについて知識を理解するだけでなく、複数の資料から読み取れることを考えたり、文章を要約したりして、資料の活用能力を高める。
工業生産	平均正答率は市の平均を上回っている。 ○「工業製品の種類」については、市の平均を上回っている。 ●資料を基にして自動車について記述する内容については、市の平均よりわずかに下回っている。	・自動車の構造について知るだけでなく、工業生産に関する文章を読んで内容を理解できるようにする。 →教科書を読み、わかったことをノートに整理するなどする。
産業と情報との関わり	平均正答率は市の平均を上回っている。 ○情報に関して共通する言葉を記入する内容は、市の平均を6ポイントほど上回っている。 ○自然災害の知識については、市の平均を5ポイント上回っている。 ●情報の正しい受け取り方については、市の平均より2ポイントほど下回っている。 ●森林を守るための間伐については、市の平均より3ポイントほど下回っている。	・インターネットを利用する際の注意点について、具体的に押さえておく。 ・林業の仕事の流れだけでなく、一つ一つの作業の理由までしっかり押さえておく。
日本の政治	平均正答率は市の平均を下回っている。 ○国会のはたらきについては市の平均より3ポイントほど上回っている。 ●日本国憲法に関する問題は平均より2～5ポイントほど下回っている。 ●三審制については、市の平均より5ポイントほど下回っている。	・日本国憲法の国民の「義務」と「権利」の違いについてもう一度内容を押さえておく。 ・天皇について憲法で定めている内容を復習する。 ・「裁判の仕組み」について、なぜそのような仕組みになっているのか、その理由まで押さえておく。
日本の歴史	平均正答率は市の平均を上回っている。 ○「縄文時代～平安時代」については、ほとんどの市の平均より上回っている。 ○「鎌倉～室町時代」についても、全ての市の平均より上回っている。 ●「日本地図をもとに前方後円墳の資料を読み取る」問題については、平均をわずかに下回っている。	・日本地図や資料から読み取れることはどんなことか、資料読み取りの時間を授業の中で確保し、読み取る練習を行う。

宇都宮市立横川西小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	76.6	72.6	71.6
	図形	76.5	74.4	72.0
	変化と関係	69.6	69.8	62.6
	データの活用	67.7	65.5	59.1
観点別	知識・技能	75.9	74.1	68.9
	思考・判断・表現	66.1	61.6	63.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

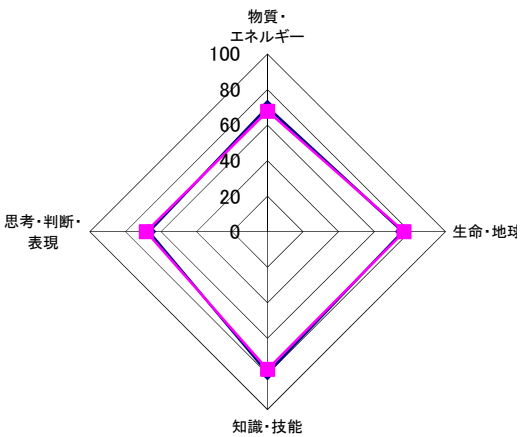
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は市の平均を上回った。 ○分数の計算、文字の式、図を使って小数倍の文章問題に合った式を選ぶ設問の正答率は市の平均を上回った。 ●小数×小数、小数÷小数の計算の正答率が市の平均をやや下回った。	・基礎的、基本的な計算の習得のために、朝の学習や毎日の宿題を通して繰り返し計算問題に取り組んでいく。 ・習熟度別学習を生かし、基礎基本の定着を図るとともに、発展的な問題に取り組んでいくようにするなど、個に応じた指導の充実を図る。
図形	平均正答率は市の平均を上回った。 ○対称な図形や三角形の内角の和、正多角形に関する設問の正答率は市の平均を上回った。 ●台形の面積を求める設問と合同な三角形の作図の方法を問う設問の正答率は市の平均を3.5ポイント下回った。	・平行四辺形や三角形、台形などの面積を求める公式を定着させるため基本的な問題に繰り返し取り組む。 ・合同な三角形を作図するための3つの条件を繰り返し取り組む。
変化と関係	平均正答率は市の平均を0.2ポイント下回った。 ○面積と人数からこみぐあいを求める設問の正答率が市の平均を12.4ポイント上回った。 ●値に0がある分離量の平均を求める設問と兄弟が同時にゴールするために弟が走る距離を求める記述式の設問の正答率は市平均を下回った。	・「単位量当たりの大きさ」の単元の中に「速さ」について、児童が理解できているかどうかを確認しながら指導をしていく。
データの活用	平均正答率は市の平均を上回った。 ○度数分布表については度数の読み取り、最頻値と平均値を求める問題の3問であったが、どの設問の正答率も市の平均を上回った。 ●複数のグラフの読み取りで、2014年と2015年を比べてどちらが多いかを答えて理由を記述する設問の正答率が低く、市の平均を下回った。	・最頻値や中央値について、児童の実態を把握し、理解と定着を図るようにする。 ・複数のグラフの読み取りをていねいに指導する。 ・理由を口頭で説明することや文章で記述する学習を授業の中に積極的に取り入れていく。

宇都宮市立横川西小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	70.0	67.8	64.1
	生命・地球	75.9	76.7	78.3
観点別	知識・技能	79.4	77.4	78.3
	思考・判断・表現	66.8	68.3	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は市の平均を上回った。 ○「電流のはたらき」と「物の燃え方」の単元についての正答率は、市の平均正答率より高い結果となった。 ●「ふりこのきまり」と「物のとけ方」の単元についての正答率は、市の平均正答率よりわずかに低い結果となった。 ●記述式の問題の正答率は、すべて市の正答率より5ポイント以上低い結果となった。	・過去に学習した内容の定着を図るため、単元同士を関連付けた授業を展開するとともに、定期的に既習の学習内容の復習を行う。 ・本時の問題→根拠に基づいた予想→実験→結果→結果をふまえての考察という授業の流れを行っていくことで、児童の思考力や判断力を育てていく。 ・理由を説明したり記述したりする活動を授業の中で積極的に取り入れる。
生命・地球	平均正答率は市の平均を0.8ポイント下回った。 ○「生物とかんきょう」の単元についての正答率は、市の平均正答率より高い結果となった。 ●「天気の変化」と「動物のからだのつくりとはたらき」の単元についての正答率は、市の平均正答率より低く、理解が不十分である。 ●ヒトの体について問われた問題の正答率が特に低い。	・学習した内容と身近な事象を結び付けて考えられるように支援や助言を行う。 ・ヒトの体のつくりやはたらきについての関心は高いので、観察や実験を行ったり、実物を扱えない場合には映像資料などを用いたりするなどして、児童がイメージしやすいよう工夫する。

○良好な状態が保たれているもの ●課題が保たれているもの

宇都宮市立横川西小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
めあてに沿った、まとめと振り返りの累積の工夫	どの教科においても、授業の始めにめあてを提示し、学習に対する児童の意欲を高めるようにした。また、振り返りについては、具体的な授業の場面を思い起こさせ、理解できたこと、できなかったことなどを自分の言葉で振り返らせたりしている。	6年生は、国語と算数の記述式設問の無回答率が市の平均と比べて低い結果であった。国語の「書くこと」の領域では、正答率が参考値と比べて上回っており、書く力が身に付いてきている。
家庭学習の定着を図るための工夫	3～6年生に、「家庭学習のヒント集」を配布し、自分で計画を立てて自主学習に取り組むように指導している。また、家庭学習強化週間を9月、11月、1月に設け、家庭学習の習慣化を図ってきた。	1～2年生は、「宿題はきちんとやっていますか」に肯定的に回答した児童の割合は94%以上である。3～6年生では、「宿題はきちんとやり、期限までに提出している」に肯定的に回答した児童の割合は50～67%と学年によってばらつきがある。

★市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・国語と算数において記述式設問の無回答率が市の割合と比べて、低い結果であった。また、国語の「書くこと」の領域では、正答率が参考値と比べて上回っており、表現力の育成に取り組んできた結果が伺える。次年度も全学年において、授業のまとめや振り返りの際に、キーワードを指定するなどの工夫を図り、児童自身が自分の言葉で表現できるようにすることを継続し、学ぶ楽しさを実感させていきたい。
- ・家庭学習については、学年によって意識に差がある。また、家庭学習の時間においても、各学年の目標時間に達していない児童が見られることから、各学年の児童の実態を把握し、宿題の量や内容を見直していきたい。今後、家庭学習の定着の観点から、保護者への啓発をさらに促していく。